早稲田大学ラグビー蹴球部における主務の役割

A manager's role in the Waseda University rugby football team

1K08B085-6 堺　裕介

主査　作野誠一 先生　副査　辻高志　先生

【序論】

大学スポーツ界において、部のマネジメントによって勝敗が大きく左右されることが顕著にある。高校のレベルの組織であったら、ある程度、制限、統制されている中で実施するので、そこまで、結果に直結することはない。しかし、大学のレベルになると、マネジメントにより、大きな環境の差、人材確保の差等が生じ、結果に大きく関わってくるのである。

このマネジメントの役割についてP.Fドラッカーは、「①自らの組織に特有の使命をはたす。②仕事を通じて働く人たちを生かす。③自ら社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題について貢献する。」と述べている。

早稲田大学ラグビー蹴球部において、マネジメントの指揮をとるのが、学生で主務という役職である。早稲田大学ラグビー蹴球部において、主務は、2年時に学年の話し合いによって選出される。その時に、選出された人間が、3年時副主務を経験し、4年時に主務となる。先行研究の「大学陸上部における主務の役割に対する認知構造について」（北館 隆，粟木 一博　2007)）と「早稲田大学各部の主務における職務満足に関する研究」（山下　圭代 2004）は、対象を主務に選定して、様々な組織における主務を比較していたが、今回の研究は、ひとつの組織、早稲田大学ラグビー蹴球部に限定して、その主務の役割を過去の歴任者と組織の構成員から考察する。

【研究方法】

早稲田大学ラグビー蹴球部の構成員である選手・学生スタッフに対して、部に関係する仕事を15項目（環境の整備、②HPの管理、③スポンサー関係、④学校関係、⑤広報関係、⑥ラグビー協会関係、⑦試合の日程調整、⑧練習の日程調整、⑨人材関係、⑩会計、⑪保険関係、⑫就活関係、⑬イベント関係、⑭部員への連絡網、⑮対外校との連絡）に分け、5段階評価をしてもらう。また、5段階評価とは別に、上記の中で特に重要だと思っているものを３つ選択してもらい、項目ごとの順位付けも行う。それぞれ学生スタッフと選手、学年という視点で比較する。

また、歴代の主務と現副主務の4名にインタビュー調査を実施することと、過去の文献を調査することにより、主務の活動への実態と役割に関する認識を検証した。

【結果と考察】

選手と学生スタッフに行ったアンケートでは、選手よりも学生スタッフの方が高い数値を示していた。今回のアンケート調査で、主務の仕事への理解度があるかという点と、直接的にラグビーに関わるかという点、直接的に自分の関わるかという点、以上の3点により、その仕事のへの重要度が高く見られるという結果を導き出せた。

また、歴代の主務に行ったインタビューによると、構成員（選手・学生スタッフ）と、主務の役割の認識にほとんど差異はなく、1つ目が部のリーダーとしてのまとめ役。2つ目が、仲介役としての役割。3つ目が外部との窓口としての役割。以上の3つが主務の役割として挙げられる。

これから、組織が大きくなればなるほど、主務が持つ一つ一つの仕事の規模、重要性が高まって行く。一人でその部の仕事を消化しようとしても、部がうまく機能していかなくなる。部を運営して行くためには、運営上のヒトの資源が必要になってくる。全部員に部の仕事の重要性を伝え、部の運営に対する関心度を高め、主務のサポーターを増やし、仕事に取り組んで行くことも大切になってくる。仕事の優先順位に迷った時は、その仕事がラグビーに直接的にどれほど関わってくるかの度合いによって、決定することが大切である。特に今回の研究では、環境の整備、練習の日程、試合の日程の3つの仕事へ重要度が高かった。構成員もその優先順位の付け方を期待している。ラグビー蹴球部である以上、最も大切にしなくてはならないものは、ラグビーそのものである。

今回の研究が、これから早稲田大学ラグビー蹴球部の主務を担う人間のサポートとなれば幸いである。